



## 欧米の情報通信の動向について

総務省総務審議官 しみす ひでお  
清水 英雄



### はじめに

清水でございます。この度、総務審議官、インターナショナル担当をおおせつかりました。勤め出して37年ですが、国際関係の勤務は初めてです。「インターナショナル」なんて大学時代に歌で歌ったぐらいしかありませんが、そんな人間がインターナショナルをやって大丈夫かなという気もしております。

今日は、国際関係についてお話をさせていただきますので、英語でお話したいところですが、誤解を招かないように日本語でお話しさせていただきます。

### 世界に例を見ない日本のブロードバンド、モバイルの発展

最近、外国に行って話をしていると、日本のブロードバンドが非常に伸びていることに気がきます。先日ドイツ、フィンランド、アイルランド、カナダ、アメリカに行ってきましたが、特にアメリカではどうして日本はこんなにブロードバンドが伸びるんだと言われました。アメリカのブロードバンドは、同軸ケーブルや銅線を利用しており、本当の広帯域ではありませんし、光ファイバーはまだまだ先という状況です。他方、日本は大変に伸びている。

外国の人は、日本でDSLが頭打ちになったということにまず驚き、光ファイバー（FTTH）が急速に伸びているということで更に驚きます。日本のブロードバンドの加入は、事業者数や利用者数も順調に伸びてきているし、通信速度も速くなっている。料金も世界一安くなっている。こういう状態になっているので世界各国からは大変驚かれるわけです。このような状況は諸外国にはありません。なぜそのようなことになっているのか。アメリカの人からは、助成金はどうなっているのだろうかと言われます。

次に必ず話題にされるのがモバイルの話です。今日本では子供が親と離れて暮らす場合、固定の電話などは持ちません。携帯電話だけで生活をする。更に、電話よりはインターネットのための設備が整っているかどうかに興味があります。最後の手段として「しょうがないから固定電話でも引くか」という「しょうがないから」の世界に入ってしまったわ

けです。

フィンランドに行ったときにノキアの本社を訪問しましたが、ノキアでは、社員の35%を研究開発に回すと言っていました。ノキアの携帯電話を見ると、日本の商品に比べて機能的にそれほど進んでいるとは思えません。単機能・低コストというだけです。ノキアの本社には、ブラックベリーや両手で操作するケータイというよりパソコン用の端末がありました。モバイルテレビなどは、日本では1〜3万円くらいで市販されていますが、ノキアの製品はまだ売られていない。やっと開発したところで、うまくいけば今年中に価格が付くだろうと言っていました。フィンランドでワンセグの携帯電話は、これからメインになるところなのです。

日本では既に9300万台の携帯電話があります。そのうちの87%がインターネット接続になっています。もう一つはカメラ付きです。こういう高機能なものが大変に伸びており、日本では第3世代の方が伸びています。最近では、これに加えてデジタルテレビというワンセグが見られるものが出ています。これが売出し後一挙に百数十万台売れて200万台に到達したということですから、急成長を遂げていると言えます。

### 情報通信分野で総務省がこれから取り組むこと

携帯電話は伸び続け、地上の回線も十分にある。こういう状態で日本は次に何をするのかということですが、当面、2010年までに総務省として取り組むことが三つあります。

一つは通信・放送の融合法を作ることです。公衆電気通信法から始まり、電気通信事業法などの古き時代の法律は、通信関係の法律、放送関係の法律、若干融合したところが通信を利用した放送に関する法律でした。それが竹中大臣当時、融合法を作るとしたら、通信・放送という区分け以外に、もう少し別の概念を考えるべきではないかという提案が行われ、2010年を見据えて融合法を作ることになったわけです。これはこれからの取組のメインになります。いままでの放送の概念でいいのか、通信の概念でいいのか。別の規制の仕方、あるいは別の新しい概念で認めていくべきなのか。ネットを使っただけの番組提供も今は通信を用いたサービ



スとして規定しているが、それでいいのか。もう一度見直して新しい体系を作ろうというのが大きな取組の一つです。

2番目は、IPネットワークが当たり前の世界になったときに、これまで作ってきた競争ルール等が、今のままでいいのかということです。今までは水平統合の話ばかりやってきたが、垂直統合の議論が大きくかかわってくるわけで、そういう場合にはどのような競争ルールの在り方がいいのかを、近いうちに決めていく予定です。研究会の報告書は既に出ましたので、それをベースにして具体的にどう進めるかがこれからの検討課題です。研究会の報告書はホームページで見られますから、お手すきのときに見ていただくと大分時代が変わってきたと思われると思います。

併せてNTTの在り方について2010年に再検討しようと考えています。政府と与党との合意文書ができていますが、そのなかで2010年に検討するという話になっています。そのときにどういうスタンスで考えていくかはこれからの議論になりますが、既に一企業であるなかで行政とのかかわりでどこまで考えるべきなのか、世界はどんな方向になっているのか、今の実行上の動きが十分なのか否か、この議論がこれからの大きな目玉になると思います。

3番目は放送の関係で、デジタル化が進んでおり、既に3000万を超す世帯の方がデジタル放送を見られるようになっています。皆様のご家庭でも御覧いただけますので、一度御覧いただくと、今まで見ていたものは何だったのかと思われるぐらい、きれいなことがお分かりいただけます。デジタル波を用いての新しいサービスも可能ですが、こちらはまだ事業としてもなかなか難しい面があるようです。

昔はデジタルテレビと言っただけで怒られたものです。10年少し前、当時、江川晃正さんが局長で、私は総務課長でしたが、アナログハイビジョンをやめるべきだ、デジタル化をやると言った途端に、大手新聞の一面で叩かれました。デジタル化を言った途端に、当時の大手放送局が「けしからん、ミューズ方式をそのまま伸ばしていくべきである」と言い、大手機器メーカーが「デジタル化に対応できる機器はまだ発売されていないし、番組だって収録できない」と言われました。その当時、アメリカでは既にデジタル化用のカメラなどが販売されておりましたが、メーカーは日本のその大手機器メーカーでした。ありとあらゆるメーカーから反対されたものです。

辛うじて賛成していたのがお二人。1人は当時の民放連の会長の日枝さんで、世界がそういう兆候にあるときに早く結論を出すべきだと言われました。もうひとりはその前の会長

の氏家さんで、世界がデジタル化の兆候にある中で、何で日本はアナログでいくのかと言われましたが、若い方々を除いてデジタル化に積極的な方は、それくらいでした。それから10年です。あの当時言い出したのに、まだ日本は年度的には諸外国に比べて若干の後れがあります。でも、このデジタル化が完成すれば、皆さんのテレビへの興味も更に高まると思います。

## 国際放送の発信力をもっと強力なものに

それから、国際放送ですが、日本の発信力が弱いから何とかしなければならぬということです。NHK等の短波ラジオとテレビ映像をアメリカ、ヨーロッパに流していますが、あれだけでいいのか。もう少し日本を知ってもらいたいのではないか。テレビの影響力は極めて大きいから、これから国際発信に向けてインターネットとテレビを使いながら考えるべきではないかという話が今話題になっています。

麻生前総務大臣ともお話ししていたのですが、日本は比較的親米の人が多い。その理由は何かと言うと、子供のときに「パパは何でも知っている」、「うちのママは世界一」、「名犬リンチンチン」、「ラッシー」といった番組を見て、アメリカはいいんじゃないか、という気持ちになっていたことにあると思います。

それと同じことが日本のソフトにあるならば、それをみんなが見れば日本に興味を持ってもらえるのでないか、そういうソフトパワーをもっと活用すべきだ、発信をしていくべきだということで、取り組みます。これはNHKの問題でもあり、大臣の懇談会でも議論しているところです。

ただ、振り返ってみると、日本で誇れる番組があるのかと考えてしまいます。ニュースはもちろん流すべきですが、今のNHKや民放のニュースを流したときに、「きょうもまた酒酔い運転で何名が逮捕されました」とトップに流れるニュースをアメリカの人がはたして見るでしょうか。やはり、もっとソフト自身を組み替える必要があります。これまでは「おしん」が一番の成功例でした。あと成功したのは「ピカチュウ」など、ほとんどアニメです。日本はアニメの国だと思っただけのもいいのかもしれませんが、コンテンツ自身も含めてもうすこし見直さなくてはいけないのではないかと。この辺がこれからの課題になるだろうと思います。



## アメリカで言われた気になること

ヨーロッパ、カナダ、アメリカへ行った際、ITUの標準化局長にNTTの井上さんが立候補していますので、井上さんはこんなに優れた人ですよということをお話しし、お願いして、いくつかの国からは好意的な回答をいただいたのですが、訪問して気になったことを御紹介させていただきます。

第1は、アメリカに行ったときにマイケル・グリーンさんに会って、そのときに出たお話です。この方は安倍総理と親しく付き合われている人と聞きますが、安倍政権では三つのことを考える必要があると言われました。

まず一つは、靖国問題については1年の間にけりをつけないと、次の選挙でどうなるか、今とそっくり同じ状態が続くか否かはアメリカとしては保証の限りではないということです。

2番目は農業問題です。2010年にAPECが日本でありますから、そこまで決着を付けなければいけないと言っていました。グリーン氏が言うには、国務省に行っているいろいろな話を聞いていても、今回テレコミュニケーションなんて出てこない。郵政なんていう言葉は聞こえないし、簡保のカぐらしか聞こえない。そんなことにはもう興味がない。今、どこに興味があるのかというと、日本でなくて中国だと言われます。

3番目は、アメリカに黙ってアジアで結集されるとアメリカとしてはうれしくないですねという嫌味を、ある省の行動について名指しで言われたのですが、そういうような状況で見ているのだなと思いました。

そのときに併せて民主党のロビイストの人にお話を伺ったところ、アメリカは日本の政治問題より、これからは経済戦略中心にやることになるだろうと言われ、日本に経済戦略というものはあるのかと聞われました。今、日本の学生がどれだけアメリカの大学に来ているのか。他方中国人はどんどん来ていると言います。日本の学生数はガタ減りですし、日本学に興味を持って来てくれるアメリカ人は少ないと言います。数少ないその人たちになぜあなたは日本語をやる気になったかと聞くと、「漫画の原本を日本語で読みたいから、日本の料理に興味があるから」と言っているということです。これでよいのかと言われました。

そういう話を聞くとさんたんたる思いがします。私は漫画が悪いと言っているわけではありません。私も大学は漫画クラブです。法学部出身だと思っていません。東京大学漫画クラブ出身で、それで採用してもらったようなものですから漫画が悪いとは言いませんが、これでよいのかなという感じを強く持ちました。これがアメリカでの印象です。

次にEU関係ですが、今、EUで一番メインに考えていることは、各国で持っている周波数の権限をEUが頂きたい、コミッティの方で決めたいということです。あそこには電波を管理するような組織などありませんが、権限上EUで決めたい、EU全体は同一周波数にしたいと言っているのです。万が一、同一周波数になると、機器が同じになって、そこからの要望で必ず次に日本だって同じ周波数でやれ、アメリカだってそうだろうというふうに広がってくるかもしれないのですが、EUとしては是非そうしたいと言うのです。ただ、これには強固に反対する国もあります。ドイツなどは大反対ですが、EUも組織体としてトータルのIT戦略を考えるようになったのだなあとという感じを強く持ちました。

## 厳しい時代が続く世界の中の日本

アイルランドに行って、ITUの標準化局長選挙で井上さんを是非お願いしたいと言うと、大変優れた人だと承知していますと言ってくれた後におまけが付いていました。実はうちの大臣の選挙区に、ある日本のメーカーが十数年いたのだけれど、今度撤退するというので大臣が非常に気にしていると言うのです。気にされたって困ると思うのですが、そういうことを言われる。これはいろいろな所での日本の傾向です。日本の企業が撤退して、代わりに韓国、中国を含めて東南アジア勢の力の強い所が乗り込んできているというのです。今や日本の力は世界的に見ると極めて小さなものになりつつあるのだなということが、今回外国を回ったときの実感です。

みんな日本はブロードバンドが進んでいるし、料金も安いし、素晴らしいと言っているけれど、本当にこのままでICT戦略は大丈夫なんだろうか。ハッと気付いたら空洞化して、日本は漫画、ゲームのみを提供する国になっているのではないか。1億を越す民がこれから漫画とゲームだけで生きていける社会が本当に来るのでしょうか。労働力人口が減っていくなかで、この国には厳しい状態がまもなく来るのではないか。私も退職金をもらったらユーロかドルに換えてしまった方がいいんじゃないかなと思うぐらい、このままでは、残念ながら日本は思っているほどの繁栄がないような気がしました。

ここにいらっしゃる方々は大きな力を持っておられますので、この国を育てていくための取組をしていただければ、行政はいろいろな面でお手伝いをしてまいりたいと思います。どうぞこれからも日本全体のためにお力添えしていただければと思います。よろしくお願いたします。

(10月11日第351回ITUクラブ例会より)